

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和3年3月1日

公表:令和3年3月5日

幼児教室てんとうむし

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	0	0	コロナ対応となると多少狭いと感じるが、物をなるべく置かず広いスペースを取れるよう工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	12	0	0	個々に関われるよう配置しながらも、職員同士連携をとり、全体で見ている。 他事業所よりは多い配置となっている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	11	0	2	建物は古いがバリアフリーではある。障がい特性への配慮で部屋が見通せ、余計なものを置かないようにしている。また、絵などで伝えるようにしている。 スロープあり	視界に入る位置に物を置かない、机上活動や給食の際に障がい特性に応じて座席を決めるなどのより細かい配慮をしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	12	0	0	毎日使用前後に徹底的に清掃、消毒している。	コロナ対策としての除菌等を更に徹底していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	11	0	1		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11	0	1	保護者の意向を職員全員で共有している。(会議とカンファレンスで)	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	0	1		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	10	2		今後第三者評価を受けるか検討する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	0	1	コロナのため外部研修には行けていない コロナの影響で十分とは言えない 研修の参加希望が通りやすい 今年度はコロナのため中止になる研修が多かったが、職員間で学び合えるような機会を多く持つようにした。	コロナ禍での研修について、オンラインでの外部研修の参加を推奨していく。職場内研修の充実を図る。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11	0	1		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	1	3		現在アセスメントにおけるツールは心理相談の発達検査のみとなっているため、より細かいアセスメントができるツールが必要だと考える。今後の課題として整備していきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	0	3		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11	0	1		

適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	0	0	<p>正規職員が立案し、看護師、OTなど専門職の意見を聞きながら行っている。</p> <p>会議で話し合ってから立案している。</p>	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	0	0	<p>季節に合わせた工作、行事を組み入れ、プロジェクターなども活用している</p> <p>流行、イベントを積極的に取り入れている。</p> <p>季節の制作やコロナによりなくなった行事も別の形として、体験(利用者が)できるようにしている。</p> <p>固定のプログラムはとても大切だと考える。固定のプログラムの中で変化をつけるようにしている。</p>	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	11	0	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11	0	0		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12	0	0	<p>どんなことでも共有し、子どもや保護者への対応を考えている。また、その後の状況も職員全員が共有できるよう記載するとともに報告している。</p> <p>話し易い環境である</p>	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12	0	0		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11	0	1		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	2	2	担当者会議が行われたことがないが、行われれば最もふさわしい者が参画する。	相談支援事業所で担当者会議が行われたことがない。電話での聞き取りの際は最もふさわしい者が対応している。今後、多岐にわたるサービスを受ける利用者が増えることが想定されるため、担当者会議での情報共有が必要となってくる。こちらからも相談事業所に会議の開催を働き掛けていきたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	11	0	1		現在は、保健相談所、家庭支援センター等と個別の案件について連携しているが、必要とあればその他の関係機関と連携していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8	1	3	保健相談所等と連携している	保健相談所、支援学校と連携している。今後は利用者が利用している訪問看護士やセラピストとも連携し情報共有しながら支援していきたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	3	2		医療機関への連携は保護者を通じて行っているが、今後直接的な指示書等が必要な場合は当教室の看護師を通じて行う体制を整えていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	5	保護者の希望があれば行っている。また、移行先からの依頼があれば適切に行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	5	2か月に1回程度、支援学校のコーディネーターが来室し、保護者、職員と情報共有及び相互理解、就学までの支援について話合っている。 特別支援学校のコーディネーターに療育相談として数か月に1回来てもらい、小学校の選び方などもアドバイスをもらっている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	0	4	連携を取るようにしている。区の研修で発達支援センターが講師の場合は受講するようにしている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	8	2	公園などで自然と交流する機会があるが、交流の必要性はあまり感じていない。(定型発達のお子さんとの交流に疲れたり、気兼ねをしたりして通ってきている人が多いので)	保護者の要望を分析し、十分に検討した上で交流をするか否かを考えていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	1	9	そのような会議があれば参加する。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	0	0	子どもの些細な変化や成長も母に伝えるようにしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	2	4	保護者の気持ちに寄り添いながら、あくまでも行える関わり方などを一緒に探しながら実践している。 ペアトレの知識がある保育士が支援している。 するはずだったが、コロナの影響でできていない	親子通園のため、保護者に対して目の前で保育士が実践できるという利点がある。適切な実践ができるよう、研修の充実を図る必要がある。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	0	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10	0	2		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	2	個別に相談に応じ、対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	0	2	保護者会以外におしゃべり会として、コロナ禍の中でもマスク着用、アクリル板使用の上で、少しの時間だけ行った。	

護者への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	12	0	0	相談の申し入れがあったときは個別に時間を作り対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	0	0	保護者会でも詳しく説明している。	
						写真がいっぱいです。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	12	0	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	0	1	焦らせず、その子のペースで活動に取り組むよう配慮している。	
絵カードの使用。							
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関われた事業運営を図っている	4	4	4	コロナの影響でできていない コロナのことがあるので、今年度は実施できなかったが、例年は敬老館を利用するお年寄りを招いたり、招かれたりと交流を図っていた。散歩も地域の方と交流しながら行っている。	コロナ禍が収束したら、地域住民にも開かれた事業運営を心掛けたい。	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	12	0	0	地震・火事は奇数月に行っている(保護者と)。嘔吐処理の対応は職員で行った。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	0	0	地震・火事は奇数月に行っている(保護者と)。嘔吐処理の対応は職員で行った。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	11	0	1	入室時、面談時に状況を聞き取りしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	0	0		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	0	0		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0	0	年1回以上の研修を行っている。また、外部の研修も積極的に参加している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10	0	2		身体拘束が必要なお子さんには、支援計画に記載しているが、十分に説明を行っていきたい。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。